

馬路村地域福祉計画評価シート（令和6年度）

《基本理念》 子どもから高齢者まで、健やかな暮らしを生涯支える村づくり

基本目標 1【地域を担う人づくり】 P22

基本施策	担当課・関係課	取り組むこと	取組内容 (何を、どのように行ったか。その成果は (数値等の明示が可能なものについては具体的 に))	令和7年度に取り組む内容	自己評価（3段階評価） A・・・十分に取組んでいる B・・・ほぼ取組んでいるが改善すべき点がある C・・・取組が進んでおらず、取組を強化する必要がある、または見直しを検討する	委員評価（3段階評価） A・・・十分に取組んでいる B・・・ほぼ取組んでいるが改善すべき点がある C・・・取組が進んでおらず、取組を強化する必要がある、または見直しを検討する
① 地域福祉の意識醸成	健康福祉課	1. 地域福祉に関する情報発信や周知活動 ホームページや村内広報、SNS等を積極的に活用し、地域福祉に関する情報発信・周知に努めます。	【福祉】 地域福祉計画の取組状況と評価については、行政HPを活用し公開した。 個別のイベントや講演会等については、村内放送や広報で案内するなど、積極的な広報・周知に努めることができた。また、施設利用や助成事業のガイドブックを冊子媒体で作成・配布し、全村民が活用できるよう努めた。	【福祉】 地域福祉計画の取組状況と評価については、行政HPを活用し引き続き公開する。 また、令和6年度に新たに作成した助成事業等を周知するガイドブックについては、内容の見直しを行い、引き続き全村民が活用できるよう作成・配布を行う。	A	A ・実際に取り組んだことにも焦点を当て発信することも大切。少し弱いと感じる。
	健康福祉課 教育委員会 総務課	2. 福祉教育・人権教育の推進 福祉意識・人権意識の醸成を図るため、地域住民の学ぶ機会として福祉や人権をテーマとした講演会や体験学習、イベント等を開催します。また、学校教育の中で福祉に関する授業を行うなど、次代を担う子供たちへの意識づくりにも取り組みます。	【総務】 魚梁瀬小中学校にて人権の花運動を実施し児童8名（小学生3名、中学生5名）、馬路村人権擁護委員2名の参加が得られた。 【福祉】 全職員を対象に介護サービスについての研修を実施。若手・子育て世代に向けた、講演会「未来のためのお金のはなし」を実施し、心身の健康だけでなく経済の健康について考えるきっかけづくりを行った。また、映画「咲む」の上映会を実施し、福祉・障害の観点から様々な家族のあり方や中山間地域の人口減、医療機関、地域の集いの場の減少を映像で見ることができ地域での支え合いの重要性について改めて意識するきっかけとなった。 【教委】 村立学校では社会福祉協議会の福祉授業や、中芸手話サークルによる講習会等に取組んでいる。また、道徳授業参観日も毎年行っている。 地域住民には安芸人権擁護委員協議会と合同で、人権コンサートを開催をした。	【総務】 引き続き、人権の花運動を実施し、家族や友人を思いやる心を花植えを通して育む取組を行っていく。 【福祉】 職員向けの研修を引き続き実施するほか、住民向けの講演会や体験学習も実施していく。多くの住民が学べる機会を創出するため、敬老会や文化祭等のイベントに合わせた実施も検討する。 【教委】 学校教育では、引き続き福祉授業等に取り組む。 住民向けに人権講座を開催し、参加者増を図る。	A	A 様々な世代の住民が「わが事」として福祉について考えるきっかけ作りに向け、魅力的かつ興味の持てるテーマ選定、学習機会の確保に努めた。

馬路村地域福祉計画評価シート（令和6年度）

基本施策	担当課・関係課	取り組むこと	取組内容 (何を、どのように行ったか。その成果は (数値等の明示が可能なものについては具体的 に))	令和7年度に取り組む内容	自己評価（3段階評価） A・・・十分に取組んでいる B・・・ほぼ取組んでいるが改善すべき点がある C・・・取組が進んでおらず、取組を強化する必要が ある、または見直しを検討する	委員評価（3段階評価） A・・・十分に取組んでいる B・・・ほぼ取組んでいるが改善すべき点がある C・・・取組が進んでおらず、取組を強化する必要が ある、または見直しを検討する
②地域福祉活動への参加促進	全課 教育委員会	1. 住民主体の意識づくり 情報発信を中心とした啓発活動に取り組 み、多くの村民が「当事者意識」を持っ て行動できるよう意識の醸成を図りま す。	【福祉】 AED講習会や避難所開設訓練の防災活動を中心 に、住民が「当事者意識」を持って行動でき るよう意識の醸成を図ることができた。ま た、一斉清掃等住民が主体的に活動できる場 を作ることもできた。 【支所】 自主的に行っているウォーキング者に、運動 の継続及び馬路村健康づくりチャレンジの活 用について啓発を行った。 【教委】 生涯学習の継続に取組んだが、村民の参加が 少ない事業もあり、意識の醸成にはつながっ ていない。 子どもたちに地域の伝統文化の継承に取組ん だ。	【福祉】 現役世代を地域活動の担い手とする足場づく りを継続して行い、世代間交流を図りつつ地 域の当事者としての意識の醸成を行う。 【支所】 住民グループが自主的に行っているウォーキ ング者に、馬路村健康づくりチャレンジ記録 表を活用していただき、運動等の継続から自 己の健康づくりに取り組めるよう青年期・壮 年期を中心に啓発を行う。 【教委】 生涯学習の在り方を工夫し、継続していく。	A 少しずつではあるが、住民主体の意識づく りが進んでいると感じている。より多くの 村民の参加（当事者であることの意識づ け）が可能となるよう、継続して支援して いく。	A ・特段の意見なし
	全課 教育委員会	2. 既存の活動への支援 村内の既存活動団体への支援を継続・強 化することにより、活動を行いたい村民 を後押しします。また、世代に関係なく 地域活動への積極的な参加を誘い、特に 次代を担う子供たちが馬路村に愛着を 持ってもらえるような取組を推進してい きます。	【福祉】 老人クラブや食生活改善推進協議会等、既存 活動団体への支援を継続して行った。食生活 改善推進協議会においては、小学校5・6年 生への料理教室の開催など世代間の交流にも 積極的に取組んだ。 【支所】 各団体の活動を理解し、古式弓射式、浦安の 舞、熊野神社例大祭やどんど焼きなど、伝統 行事の継承を推進している。リーダーの育成 や馬路村への愛着心の醸成につながるよう、 学校や地区と連携し活動を見守り、声かけな どを積極的にしている。 【教委】 村民の参加できる行事を実施するとともに、 学校運営協議会を中心に村内イベント等への 生徒たちの参加に取組んだ。また、小学生か ら民俗文化財である古式行事への参加促進に 取り組んだ。	【福祉】 引き続き既存活動団体への支援を行い、特に 世代間の交流を積極的に進める。また、現役 世代が主体的にかかわる地域活動につなげら れるよう、関係機関や団体とも協力してい く。 【支所】 住民が主体的に誘い合って参加できるよう、 活動の継続を支援していく。 【教委】 各種団体の支援と、地域全体で青少年の地域 活動への参加促進、郷土愛の向上事業を計画 し実施していく。	A 行事の継承の他、地域住民の持つ社会資源 を活かした活動の支援に取り組んだ。 地域活動の担い手の発掘、移住者や若者同 士のコミュニティ形成につながる取組を継 続する。	A ・子供たちが馬路村に愛着を持ってもら えるよう対外的な面で子供たちもイベン トへの参加ができると良いのではない か。
	健康福祉課 総務課	3. リーダーの養成 地域福祉活動を率先して行うリーダーの 育成に取り組むことにより、新たな活動 を生み出していきます。また、資格取得 補助などの支援を充実させ、災害時にも 住民が主体となって活動できるように取 組んでいきます。	【福祉】 馬路村消防団と連携してAED講習会を各地区で 実施し、有事の際に主体的に活動できるよう 住民力の向上に向けて取り組んだ。	【福祉】 次年度は各地区で住民主体の訓練（避難所開 設訓練等）を実施し、住民力の向上とともに 地区の中でリーダーが育つように取り組ん でいく。	A 積極的に取り組めた。すぐに成果のも のではないが、既存活動団体等地域資源を 活用しながら、支え合う仕組みを構築して いく。その中で、世代間による継承など住 民同士の中で進めていけるよう支援を行 う。	A ・防災面だけでなく、地域福祉の面も力 を入れて進めてもらいたい。

馬路村地域福祉計画評価シート（令和6年度）

基本目標2【誰もがつながる地域の輪（ネットワーク）づくり】

基本施策	担当課・関係課	取り組むこと	取組内容 (何を、どのように行ったか。その成果は (数値等の明示が可能なものについては具体的 に))	令和7年度に取り組む内容	自己評価（3段階評価） A・・・十分に組み組んでいる B・・・ほぼ組み組んでいるが改善すべき点がある C・・・取組が進んでおらず、取組を強化する必要が ある、または見直しを検討する	委員評価（3段階評価） A・・・十分に組み組んでいる B・・・ほぼ組み組んでいるが改善すべき点がある C・・・取組が進んでおらず、取組を強化する必要が ある、または見直しを検討する
① 交流機会の推進	全課 教育委員会	1. 顔の見える関係づくり 各地区の地区長や民生委員・児童委員と協力して、地域の活動を支援します。また、窓口や訪問現場での対応をする中でも地域住民との対話を重視し、お互いが信頼できる関係づくりにも取り組みます。	【福祉】 今年度も職員による敬老（お祝い）弁当の配布を引き続き行い、生活状況の把握につなげた。また、地域行事へ積極的に参加することにより地域住民との関係づくりに努めた。 【全課】 訪問や地域行事、あったかふれあいセンター事業、会議等で得た情報を担当課や関係機関と共有し、顔の見える・支え合える関係づくりに努めている。 【支所】 あったかふれあいセンター事業や百歳体操、会議等への参加者らと対話して得た情報を、地区長や民生児童委員、集落活動センター等と共有し、支え合える関係づくりに取り組んでいる。 【教委】 学校運営協議会の地域活動を増加させた。講演会等開催の際は、社協（民協）への周知を図り、活動の機会を作った。	【全課】 訪問時の声掛けや地域行事への参加を通じて、顔の見える関係づくりに継続して取り組む。 特に移住者など住民同士と、行政や関係機関とのつながりも強化・拡大していく。 【支所】 特に、一人暮らしの高齢者の暮らしを地域住民やあったか、デイサービス、郵便局や農協、診療所、民生児童委員等の関係者で対話を重ね、共有しながら見守っていく地域づくりに取り組む。 【教委】 村全体で、住民同士の信頼関係向上のため、自ら声かけに積極的に取り組む。	<p style="text-align: center;">A</p> <p>地域行事や訪問現場での対応等の機会を活かした関係づくりに取り組んでいる。行事への積極的な参加や現場対応時の対話の取組を引き続き進める。</p>	<p style="text-align: center;">A</p> <p>・敬老弁当の配布では、対象者と普段関わりのない職員との顔つなぎができ、村民の生活状況も確認できる良い取り組みである。</p>
	地域振興課 健康福祉課 教育委員会	2. 世代間交流の促進 村内で展開される各種行事やイベント、座談会など、村に住む様々な人をつなげる交流の機会をつくります。地区ごとの世代間交流を積極的に進め、緊密な地域の輪を創出するとともに村内全域に展開します。	【福祉】 一斉清掃や防災活動を中心に世代間を超えた交流ができる機会を創出することができた。 【振興】 移住者、村民、ふるさとワーキングホリデー事業参加者、インターン参加者の交流会を7回実施、93名の参加であった。 さらに年度末までに移住フェア参加者の交流会を2回実施予定。	【福祉】 地区ごとの活動を支援しながら、世代を超えた多くの住民が積極的に活動・交流できるよう協力していく。 【振興】 令和6年度と同様、機会をとらえて世代を超えた各種交流会を実施予定である。	<p style="text-align: center;">A</p> <p>若者の持つ地域資源（特技やスキル）を活かした世代間交流を行うとともにUコネクトを中心とした積極的な活動を継続する。</p>	<p style="text-align: center;">A</p> <p>・担当課、関係課に教育委員会を追加してはどうか。（地区運動会後の交流会など）</p>

馬路村地域福祉計画評価シート（令和6年度）

基本施策	担当課・関係課	取り組むこと	取組内容 (何を、どのように行ったか。その成果は (数値等の明示が可能なものについては具体的に))	令和7年度に取り組む内容	自己評価（3段階評価） A・・・十分に取組んでいる B・・・ほぼ取組んでいるが改善すべき点がある C・・・取組が進んでおらず、取組を強化する必要がある、または見直しを検討する	委員評価（3段階評価） A・・・十分に取組んでいる B・・・ほぼ取組んでいるが改善すべき点がある C・・・取組が進んでおらず、取組を強化する必要がある、または見直しを検討する
② 交流拠点の確保	健康福祉課	1. あったかふれあいセンター事業の充実 馬路村社会福祉協議会と連携し、既存のあったかふれあいセンター事業を充実させ、誰もが最期までいきいきと自分らしく住み続けられる地域づくりをめざします。また、集いの場が介護予防の場になっていることなど、本事業の担う役割を全世代に周知するとともに、本事業への理解の促進に努めます。	【福祉】 集いの場への参加や、住宅改修を行うなどフレイル予防や転倒リスクの軽減につながった。対象者自身が自己の体を理解し、家族と共に運動の必要性を再確認し、意識改善を図ることができた。 特定地域づくり協同組合の利用により慢性的な人材不足の解消にも積極的に取組んでいる。併せて、後期高齢、国保の各担当とも連携し、健康づくり事業の場としても活用した。	【福祉】 高齢者の訪問・生活実態把握を引き続き行い、利用に繋げていく。また、高齢者運動機能等向上事業を活用し、理学療法士による百歳体操へのアプローチを継続して実施予定。利用者の様子について月1回実施する支えあい会での情報共有を行い適正なサービス利用の検討を進める。	A 利便性の向上・健康づくり事業の充実が進んだ。また、地域づくり協同組合の利用による人員確保等、職員の負担軽減につながる取組も併せて行うことができた。	A ・あったかへの誘い出しについて引き続き頑張っていたきたい。
	地域振興課 教育委員会	2. 既存施設の活用 馬路村集會センターうまなびや村民グラウンド等の村有施設を活用し、特に若者を中心とした交流を積極的に進めます。今まで関係のなかった者同士が交流することで、新たな事業の創出や展開に発展させます。	【振興】 ふるさとワーキングホリデー事業参加者と村民の交流会をうまなびで実施した。（2回実施、参加人数合計34名。） 【教委】 スポーツイベント（職域ソフト、スカッシュバレーボール大会）を実施。若者や各職場の交流を深めた。	【振興】 令和6年度同様、機会をとらえて村有施設を活用する予定である。 【教委】 生涯学習開催を広く周知し、若い世代の参加できる事業を展開する。	A 既存施設を活用した若者同士のコミュニティ形成・交流機会の確保の取組を実施することができた。今後については、気軽に利用できるということを周知し、テーマ型のコミュニティの場として住民自らが施設を進んで借り上げ利用することを目指していきたい。	A ・参加者と村民、事業者での交流の場があることで人となりを知ることができ、受け入れしやすいので継続して取り組んでいきたい。
ト③ 地域と行政・関係機関のネットワークづくり	全課 教育委員会	1. 地域住民とのネットワークづくり 日常のあいさつ、声かけなど「あたりまえ」のことを行政職員が習慣化することから始め、地域活動やイベント等への積極的な参加を通して地域住民との信頼関係を構築するとともに、地域と行政が一体となった支えあいの形をめざします。	【全課】 全職員であいさつ、声かけの実施に取組んでいるほか、地域活動にも積極的に参加している。また、あいさつや訪問時に気になることがあった場合、関係課・機関とも迅速な情報共有が行えている。 【建設】 水道検針時に、住民への挨拶や声かけを行っている。その中で、使用量の大幅な変化や漏水の疑いが見受けられる場合には、再度の声かけや連絡を実施している。また、ポストへの投函物が溜まっているなど気になることがあれば、健康福祉課へ情報共有を行った。 【支所】 住民に日常のあいさつや声かけを積極的に行い、興味や関心をもって関わり合いがもてるように取り組んでいる。 【教委】 地域活動への参加に取組んでいる。情報共有にも努めた。	【全課】 地域住民同士や各団体との関わり合いからつながりが生まれ、必要とする支援が受けられるよう取組を継続する。 【建設】 令和7年度も検針時に継続した声掛け等を行い、変化等があれば関係機関と情報共有を図っていく。 【支所】 移住者や帰省者等に関わり、信頼できる関係性の構築と、行政や関係機関などへつなぐ役割を強化していく。 【教委】 地域住民同士や各団体とのかかわり合いからつながりが生まれ、必要とする支援が受けられるよう取組を継続する。	A 地域行事や訪問現場での対応等の機会を活かした関係づくりに取り組んでいる。行事への積極的な参加や現場対応時の対話の取組を進める。	A ・窓口でも顔を見て挨拶しており雰囲気が良い。村民とのコミュニケーションにより生活状況等をうかがえるような会話があるとなお良い。

馬路村地域福祉計画評価シート（令和6年度）

基本目標3【誰もが安心できる支援の実施】 P26

基本施策	担当課・関係課	取り組むこと	取組内容 (何を、どのように行ったか。その成果は (数値等の明示が可能なものについては具体的 に))	令和7年度に取り組む内容	自己評価(3段階評価) A・・・十分に組み立てている B・・・ほぼ組み立てているが改善すべき点がある C・・・取組が進んでおらず、取組を強化する必要が ある、または見直しを検討する	委員評価(3段階評価) A・・・十分に組み立てている B・・・ほぼ組み立てているが改善すべき点がある C・・・取組が進んでおらず、取組を強化する必要が ある、または見直しを検討する
① 健やかな暮らしを見守る支援の充実	健康福祉課	1. 高齢者への支援 基本計画：中芸広域連合高齢者福祉計画・介護保険事業計画 いきいき百歳体操等の介護予防事業を通じて、高齢者が社会参加しやすい環境づくりに取り組めます。また、高齢者を地域全体で支え、最期を迎えるまで在宅で生活してもらえるよう中芸広域連合や馬路村社会福祉協議会等関係機関との連携強化に努めます。	【福祉】 高齢者のスマートフォン使用に向けた端末補助、サポート養成、スマホ教室（年度末までに実施予定）を実施し、スマートフォンの利用促進に向け周知に努めた。 あったかふれあいセンターを主とした介護予防事業を継続的に実施するとともに看護師や保健師による訪問事業を中心に生活実態の把握及び支援に努めた。	【福祉】 デジタルデバイドの解消に向け、高齢者のスマートフォン使用に向けた取組を継続して実施。内容は、端末代補助、スマホ教室の実施。また、田野病院と連携し、高齢者の運動機能等の向上に向けた訪問及び生活・運動指導事業を昨年に引き続き実施。一体的実施事業は、フレイル予防をメインテーマに展開予定。	A 高齢者本人への支援や把握を実施できており、現在の取組を継続していく。運動指導や、社会参加に向けたデジタルデバイス解消等、身体的・社会的に健康な生活づくりに向けた取組を行う。	A ・引き続きデジタルデバイドの解消に向けた取り組みを進めていただきたい。
	健康福祉課	2. 障害者への支援 基本計画：中芸広域連合高齢者福祉計画・介護保険事業計画 障害の有無にかかわらずお互いの個性と人格を尊重しあいながら、安心して生活できる環境の整備を進めます。また、農福連携など新たな就労の形を模索するとともに、障害者に寄り添った伴走型の就労支援にも取り組んでいきます。	【福祉】 自立支援医療（更生医療）等の制度利用を促した。	【福祉】 引き続き自立支援医療（更生医療）等の制度利用を促す。農福連携については中芸広域連合を中心に組み立てられており、その取組を参考に研究を進める。また、農福だけにこだわらず、障害者の雇用の場についても検討を進める。	B 新規雇用の場の創出に向け、近隣市町村からの情報収集等、研究を進めるほか、障害の理解につながる取組を継続する。	B ・就労支援の取り組みを広報で周知することでモチベーションにもなるのではないか。 ・村内事業所と連携し新たな就労支援も研究していけるのではないかと。
	健康福祉課 教育委員会	3. 子育て世代への支援 基本計画：馬路村子ども・子育て支援事業計画 村の宝であり次代を担う子どものことを第一に考え、男女とも育児と仕事の両立を地域全体で支えます。また、子どもを持ちたいと考える夫婦や子育てを行う世帯のニーズ把握と気軽に相談できる体制を整え、夫婦が子育てをしたいと思う環境づくりにも努めます。	【福祉】 子育て世代包括支援センター（つどマル）では、利用者や子育てコーディネーターから聞き取った意見を基に、絵本やおもちゃ等を設置し、より利用しやすい環境の整備に取り組んだ。また、子育てひろばや昨年度からスタートした赤ちゃん用品支給事業により、保健師などの専門職にも気軽に相談できる体制を整えている。 【教委】 教育相談の実施や、保・小・中連絡会での情報共有、保護者との情報共有で、連携を深めている。	【福祉】 支援を継続する。また、伴走型相談を実施することにより、妊娠期～出産期～子育て期を切れ目なく支援する環境づくりにも取り組む。 【教委】 教育相談の継続や、小学校への接続の重視、小中一貫校制度を活かしながら、保護者とも情報共有し連携を図る。	A 関係機関が連携し、安心して出産・育児ができる環境の構築に努めることができた。特に子育て世帯包括支援センターは多くの子育て世帯に認知されており、保健師の介入とともに大きな成果となっている。引き続き充実した支援となるよう取り組んでいく。	A ・特段の意見なし

馬路村地域福祉計画評価シート（令和6年度）

基本施策	担当課・関係課	取り組むこと	取組内容 (何を、どのように行ったか。その成果は (数値等の明示が可能なものについては具体的 に))	令和7年度に取り組む内容	自己評価（3段階評価） A・・・十分に組み立てている B・・・ほぼ組み立てているが改善すべき点がある C・・・取組が進んでおらず、取組を強化する必要が ある、または見直しを検討する	委員評価（3段階評価） A・・・十分に組み立てている B・・・ほぼ組み立てているが改善すべき点がある C・・・取組が進んでおらず、取組を強化する必要が ある、または見直しを検討する
① 健やかな暮らしを見守る支援の充実	全課 教育委員会	4. 就労の支援 自立した生活の基盤となる就労の安定について、一人ひとりの心身の状況に応じた就労や活躍の場を確保するため、福祉分野のみならず村内の幅広い産業分野の事業所等と連携するとともに、情報の共有を図ります。	【福祉】 就労支援に向けた生活の立て直しについて、村社協、診療所のほか県・奈半利社協等とも連携し情報共有や支援の方針の検討を重ね取り組んでいる。 【支所】 山村留学生の家族や転入者の生活基盤を確立するため、関わりがある方を中心に就労の相談・斡旋や事業所への取り次ぎなど支援をしている。	【福祉】 一人ひとりの状況に合わせた支援の取組を継続する。 様々な特性を抱えた人がいるということを踏まえ、担当の枠を超えか全体で向き合えるよう引き続き連携していく。 【支所】 村の特定地域づくり事業の活用や最新の雇用情報を提供し、安心・安全に働くことができる就労先につながるまでサポートしていく。	A 社協等村内関係機関の他、奈半利社協、県社協等広域での情報共有・連携の体制は整備されている。	A ・特段の意見なし
	健康福祉課	5. 権利擁護の推進 「馬路村成年後見制度利用促進基本計画」に基づき、虐待を含めた支援を必要としている人の権利擁護や意思決定を社会全体で支援するため、法律・福祉・医療などの関係機関と連携して、権利擁護と成年後見制度の利用促進に取り組めます。	【福祉】 障害・高齢・地域福祉の各担当間での支援体制が構築できている。 成年後見制度ブロック協議会にて制度理解に向けた意見交換を行った。	【福祉】 引き続き制度利用のニーズに対応できるように、情報収集を行う。	B 支援ケースへの対応を継続して行う。支援を必要とする人の財産保持・権利擁護に向け情報収集・相談体制の整備の取組を継続する。	B ・包括支援センターを活用し、周知に努めていただきたい。
	健康福祉課	6. 再犯防止活動の推進 「馬路村再犯防止推進計画」に基づき、犯罪や非行をした人が社会復帰後に地域社会で孤立しないために、国・地方公共団体・民間協力者が一丸となった「息の長い」支援の実現に取り組めます。	【福祉】 保護司による「社会を明るくする運動」の広報や、活動拠点である厚生保護サポートセンターの運営支援を行った。また、犯罪や非行のきっかけとなる生活困窮や孤立といった状況を防ぐため、各関係機関との相談・情報共有に努めた。	【福祉】 取組を継続する。偏見の解消に向け人権意識の涵養を引き続き行うほか、総務課や教育委員会と連携した研修、講演会を実施し、住民への啓発も行う。	B 当事者が関わるケースはなかったが、人権意識の涵養に向けた研修及び情報収集・相談体制の整備の取組を継続する。	B ・保護司に関して、勉強会など期待している。
	健康福祉課 教育委員会	7. 自殺対策の推進 「馬路村自殺対策計画」に基づき、誰もが自殺に追い込まれることのない馬路村の実現をめざして、年間自殺者数0人を計画の数値目標とし、関係機関と連携を図りながら、自殺対策に取り組めます。	【福祉】 SSWと協力し、小中学校の教員を対象にゲートキーパーの養成研修を実施し、当事者に寄り添い傾聴できる体制づくりに努めた。また、日頃から高齢者や障害者、母子の支援活動を行いながら、見守り・訪問による対策も行っている。 【教委】 各村立学校において、道徳の時間等を使用して児童生徒への意識付けを行った。また、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラーの配置により自殺防止対策に努めた。	【福祉】 関係機関と連携した見守り・訪問活動を継続する。また、ゲートキーパーについても研修や講話を含め検討する。 【教委】 取り組みの継続実施	A 高齢者や母子支援等個別の支援、児童生徒への啓発と併せ、小中学校の教員を対象としたゲートキーパー養成講座を実施した。今後も取組を継続していく。	A ・教員を対象とした研修が実施できたことはとても良い。不登校に関しても教育委員会と連携し継続して把握・支援に努めていただきたい。

馬路村地域福祉計画評価シート（令和6年度）

基本施策	担当課・関係課	取り組むこと	取組内容 (何を、どのように行ったか。その成果は (数値等の明示が可能なものについては具体的 に))	令和7年度に取り組む内容	自己評価（3段階評価） A・・・十分に組み立てている B・・・ほぼ組み立てているが改善すべき点がある C・・・取組が進んでおらず、取組を強化する必要が ある、または見直しを検討する	委員評価（3段階評価） A・・・十分に組み立てている B・・・ほぼ組み立てているが改善すべき点がある C・・・取組が進んでおらず、取組を強化する必要が ある、または見直しを検討する
②安心・安全の地域づくり	全課 教育委員会	1. 防犯や交通安全対策の推進 警察等関係機関と連携し、防犯についての 広報活動を充実させるとともに、地域 での声かけや見守り活動を推進してい きます。また、街頭指導を中心とした交通 安全に対する啓発活動やガードレール、 カーブミラー、街灯などの交通安全に関 連する施設整備にも積極的に取り組んで いきます。	【総務課】 春・秋・年末年始に行われた交通安全期間中 に村内主要道路沿いへののぼり旗の設置、通 学路等での街頭指導・村内放送や広報車によ る交通安全の啓発を行った。 村内事業者と協力し、村内各所のカーブミ ラー清掃を実施し、安全な交通環境の維持を 行った。 【建設課】 ・住民より要望のあった、馬路地区村道五味 有ノ木線及び魚梁瀬地区村道千本通り線の カーブミラー（1基づつ）取替工事を行った。 【支所】 馬路駐在所の訪問の際、情報共有を行い、防 犯対策等について高齢者に伝達をしている。 交通安全については、街頭指導による啓発に くわえて地区内パトロールや住民情報による 外灯、カーブミラー等の修繕依頼、村道の補 修などの整備に取り組んでいる。 【教委】 各村立学校において、定期的に交通安全教室 を実施している。また、教職員や保護者によ る街頭指導も実施している。	【総務課】 取組の継続実施 【建設課】 ・地域住民からの要望により、ガードレール やカーブミラーの安全施設を整備していく。 【支所】 特に住民から寄せられた修繕等の情報につ いては、関係機関や所管課への取り次ぎから実 施後の報告までを行う。 【教委】 取組の継続実施	A 交通安全や防犯対策を継続する。	A ・特段の意見なし
	全課 教育委員会	2. 防災活動の推進 自主防災組織や団体等の自主的な防災活 動をリード・支援し、地域防災力の向上 を図ります。住民の防災意識の維持向上 に努め、防災グッズや備蓄品、避難経路 の確認など家族観での共有を促すよう啓 発活動に取り組めます。また、異常気象 時には早めの避難を呼びかけ、安心・安 全な避難行動が可能となるよう関係機関 との連携強化に取り組めます。	【総務課】 各地区自主防災組織に促し、避難経路におけ る危険箇所の確認を行った。また、能登半島 地震の災害派遣による経験を踏まえ、地域住 民や学校での講演会を行った。 南海トラフ地震臨時情報（注意）発令時 は、配備体制を整え、気象庁等の情報を注視 し、防災対策の強化を呼びかけた。 【福祉】 24時間誰でも使用できるAEDを日浦地区と東川 地区に新たに設置した。 馬路・魚梁瀬消防団と連携して各地区でAED講 習会を、影地区住民を対象に馬路体育館で避 難所開設訓練を実施し、より多くの住民が自 主的に活動できるよう取り組んだ。 発災時のトイレについて、12月広報誌にチ ラシを折り込んだほか、役場・うまなび・役場 前バス停・診療所のトイレに防災トイレ1回 分とチランを設置し、啓発した。また、全職 員に災害用トイレキットを配布し、各家庭で 災害用トイレの設置等を実践し、職員の防災 意識の向上につなげた。 【支所】 総務課職員や村保健師、県地域支援企画員に よる能登地震災害派遣報告に学び、自主防災 会では地震の際の倒壊の恐れがある家屋や 塀、避難経路等の危険箇所の点検及び地区役 員会と連携し災害時要支援者情報の整理・共 有を行った。 【教委】 健康福祉課と連携し、誰もが過ごしやすい避 難所運営に取り組んでいる。 学校教育での防災訓練を継続する。	【総務課】 引き続き、気象台や消防、警察等各機関との 連携強化を図り、的確な情報収集・発信に努 める。また、役場職員の初動対応方法の周知 や実践訓練を実施する等、初動体制強化を図 る。 また、自主防災組織と連携し、防災訓練や 避難所運営訓練等を行うことで防災力の向上 に努める。 【福祉】 次年度は各地区で住民主体の訓練（避難所開 設訓練等）を実施し、地域防災力の向上を図 る。 【支所】 自主防災会を中心に実施計画を立て防災訓練 のほか、主管課や地区役員会等との連携によ り避難所運営、地区行事にあわせた炊き出し 訓練など新たな訓練内容にも取り組んでみ る。 【教委】 学校教育での防災訓練を実施する。 地域一体となった子ども防災キャンプを実施 する。	A 南海トラフ地震に備え、対応・連携の強化 を行った。避難所開設訓練を引き続き実施 するほか、村内イベントの場での防災資機 材の使用や講演会実施による防災意識の啓 発にも引き続き取り組んでいく。	A ・地区の避難訓練等への参加について、 地域の防災力向上及び参加者の固定化を 避けるため、小中学生にも参加してもら えるよう若い世代の参加率に向けて頑 張っていただきたい。 ・各家庭での防災に関する備蓄品につ いて、移動販売などを実施することで特に 独居高齢者が購入する機会を作ることも 地域の中で進めていくことができればよ い。
	健康福祉課	3. 災害時避難行動要支援者対 策の推進 災害時避難行動要支援者名簿（個別避難 行動計画含む）の見直し・更新を定期的 に実施します。対象者の近隣住民や民生 委員・児童委員、関係機関とも情報を共 有するとともに、避難訓練等を通して、 いざという時にも適切な対応が可能とな るよう体制整備に取り組めます。	【福祉】 要支援者名簿の見直し・更新を行った。更新 後の名簿は各地区の自主防災組織などに共有 し、共助につなげるよう促した。	【福祉】 要支援者名簿の見直し・更新を年に1回行うと ともに、関係機関への情報共有をすること で、有事の際に適切な対応ができるよう体制 整備に取り組む。	B 作成、関係機関での共有を行っている。今 後も見直しと更新を続けるほか、避難訓練 等、広く活用した取組を検討する。引き続 き、可能な限り自主防災組織と情報を共有 し、いざという時にも適切な対応ができる よう体制整備に取り組む。	B ・特段の意見なし

馬路村地域福祉計画評価シート（令和6年度）

基本施策	担当課・関係課	取り組むこと	取組内容 (何を、どのように行ったか。その成果は (数値等の明示が可能なものについては具体的 に))	令和7年度に取り組む内容	自己評価（3段階評価） A・・・十分に組み立てている B・・・ほぼ組み立てているが改善すべき点がある C・・・取組が進んでおらず、取組を強化する必要が ある、または見直しを検討する	委員評価（3段階評価） A・・・十分に組み立てている B・・・ほぼ組み立てているが改善すべき点がある C・・・取組が進んでおらず、取組を強化する必要が ある、または見直しを検討する
③多様な福祉ニーズへの対応	全課 教育委員会	1. 包括的な支援体制づくり 行政や社会福祉協議会、診療所、中芸広域連合（地域包括支援センター）で構成する支えあいネットワーク会議を中心とした包括的な支援体制を強化し、すべての村民が生涯安心して暮らすことができるよう一体となって取り組んでいきます。	【福祉】 支えあいネットワーク会議を継続して実施し、子どもから高齢者まで安心して暮らせるよう各関係機関だけでなく村内事業所にも協力いただき不安のある行動や生活の様子について情報共有を行い必要なサービスの検討、つなぎを行っている。緊急通報装置設置による見守り体制については継続して実施。 【支所】 住民が安心・安全に暮らすことができるよう、行政や集落活動センター、社会福祉協議会、診療所、中芸広域連合、消防や駐在所などと連携し情報の共有と支援に継続して取り組んでいる。 【教委】 各村立校では社会福祉協議会が福祉教育授業を毎年行っている。	【福祉】 情報共有を引き続き行い、適切なサービスに早期につなげられるよう取組を継続する。 【支所】 住民が魚梁瀬で安心して暮らすことができるよう、新たな課題や要望に対応できる体制づくりと、関係機関で情報共有と連携により取組を強化していく。 【教委】 福祉教育授業の継続	A 支えあいネットワーク会議を活用し、情報共有と支援の取組を行っており、緊急時の対応等の情報も共有できている。担当課に関係なく、気になる様子を見かけたとき等の連携を取れるよう引き続き取り組む。	A ・特段の意見なし
	健康福祉課 地域振興課	2. 福祉サービスの充実 地域住民の新たな課題への対応や現行のサービスを充実させるためにも、地域おこし協力隊や特定地域づくり協同組合等を活用し、福祉に従事する人材の確保に努めます。また、馬路村社会福祉協議会との連携を強化し、求められる多様な要望にも柔軟に対応できるよう体制づくりにも取り組みます。	【福祉】 特定地域づくり協同組合からの職員派遣を受け、あったかふれあいセンター事業やデイサービスセンターの充実につなげることができた。また、10月からは看護師・保健師の資格を持つ職員を新たに健康福祉課に配置したことにより、訪問を強化することができ、つなぎや生活実態把握が進んだ。 【振興】 特定地域づくり事業を活用し、馬路村地域づくり事業協同組合から社会福祉協議会への人材派遣を行い、あったかふれあいセンターやデイサービスの人材確保に寄与している。	【福祉】 介護・福祉従事者の獲得・定着支援について、社会福祉協議会のみならず県・広域連合等広く連携し、サービスの維持充実に取り組む。 【振興】 引き続き派遣事業を行い、また派遣職員の追加募集により、さらなる人員の増を図る。	A 特定地域づくり協同組合がR6年度に採用した1名が定着し、R5年度に採用した2名も引き続き福祉サービスにも従事しているため、今後も組合を活用しながら定着へのフォロー、また新規雇用に向けても取り組んでいく。	A ・特段の意見なし